

# 法人第6期 会長退任にあたって



光田 憲朗\*

日本太陽エネルギー学会法人第6期の会長を務めさせていただきました光田です。就任早々からコロナ騒ぎで、リアルの会議が開催できなくなり、どうなることかと心配しました。ですが、事務局の池田事務局長、荒井さん、竹井さんや、理事会の皆さん、特に秋澤副会長（現会長）、加藤副会長、若尾副会長に助けられ、オンライン会議が開催できる設備と体制を構築していただくことで、なんとかこのコロナ禍を耐え忍ぶことができました。本学会会員の皆さんにもオンラインでの研究発表会などで、ご不便やご心配をおかけしたかと思ひます。ご理解とご協力を賜り誠にありがとうございました。

コロナ禍ではありましたが、本学会の活性化のため、副会長の皆さんを中心に、さまざまな改革に取り組んでいただきました。

まず、秋澤副会長（現会長）には、編集委員会委員長に就任いただき、会員の皆様にとって、より魅力的な学会誌の実現に向けて、編集委員の皆さんのご協力をいただきながら新たな企画を盛り込んでいただきました。例えば、大学や企業の研修室を紹介する【研究室紹介】や団体会員の太陽エネルギーへの取り組みを紹介する【団体会員の技術紹介】などです。

また、加藤副会長には、学会誌のホームページを大幅に改定いただき、過去の特集記事などを会員の皆さんにご覧いただいたり、PDFで取り込んでいただいたりできるようにしていただきました。普段、日本太陽エネルギー学会のホームページをご覧にならない方も是非 (<https://www.jses-solar.jp>) にアクセスいただき、“お気に入り”に加えて活用いただければと思います。

さらに若尾副会長には、年に1回しか発表の機会がなかった【研究発表会】から、特に学生さんの発表の機会を増やすために、新たに【若手研究会】を立ち上げていただき、オンラインでの【研究発表会】と共に、その企画・運営に多大な尽力をいただきました。学生さんにとっては、学会発表の機会が増え、発表の内容が良ければ、『若手研究発表会奨励賞』がいただけるということで大いに盛り上がったかと思ひます。

前会長の須永先生（第6期で理事を退任されました）にも、ずいぶんお世話になりました。特に、『日

本太陽エネルギー学会は、中学・高校も含めて、学生さんの教育にもコンテンツや情報の提供などで貢献すべき』との信念のもとで、新たに【教育委員会】を立ち上げていただき、『著作権』に関する難しい問題を解決しながら、教育コンテンツとしての動画を作成いただき、当学会ホームページでもダウンロードできるようにしていただきました。

また、太和田名誉会長には、200万円の寄付をいただき、【太和田賞】を新設させていただいて、太陽光発電の分野に関わる研究を対象として、最優秀と評価された論文賞または学会賞（学術部門）として副賞20万円とともに授与することになりました。太陽光発電の分野を研究されている会員の皆さんにとって大いに励みになると思ひます。

この他、各委員会、各部会、関西支部の皆さんのご尽力も大きかったのですが、紙面の関係もあり、ここでは割愛させていただきます。どうもありがとうございました。

第6期では、新たに【フェロー制度】を新設し、分野ごとに、総勢41名の専門を極められた方々に名誉あるフェローに就任いただきました。就任いただいたフェローの方々には、今後とも本学会や会員の皆様をさまざまな形で強力にサポートいただけるものと確信しています。どうぞご指導の程よろしくお願ひ申し上げます。

会長を退任しても2年間、理事として残って学会のサポートをするようにとの池田事務局長からの要請で、もちろん理事会にあまり口出しするつもりはありませんが（笑）、僕にできる範囲で手助けさせていただきます。その後理事も退任する予定です。

理事会の皆さん、事務局の皆さん、会員の皆様、2年間どうもありがとうございました。

最後に、日本太陽エネルギー学会が会員の皆様と共に、ますます発展し、日本の世界の再生可能エネルギーの普及やカーボンニュートラルの実現に貢献できることを祈念いたしまして、会長退任の挨拶とさせていただきます。

\*三菱電機株式会社